

男女共同参画社会をめざす

# New Wave No.6

ニューウェーブ

平成14年(2002年)8月25日発行

特集

男女共同参画社会を目指しています  
～3つの共働きファミリーの場合～



毎年11月12日から25日までの2週間は、「女性に対する暴力をなくす運動」の実施期間です。

発行／横須賀市 市民部男女共同参画課

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています

★このリーフレットはご自由にお持ち下さい。

# 特集

## 男女共同参画社会を目指しています

男女共同参画社会：まだまだ真新しい言葉ですが、こうした言葉は知らなくてもすでに実践している人は大勢いるはず。ちょっと社会を見てみれば、共働きの夫婦はいっぱいいるし、こうした家庭では自然に家事も子育ても二人で分担し、助け合っことが多くなってきています。また、一言で共働きといっても、家庭の数だけいろいろな形があるのではないのでしょうか。

今回は、そんな共働きの家庭にスポットを当て、いろいろお話を伺ってみることにしました。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★

Aさん(43歳女性)

聖心女子大学英文科卒業後、学習塾を経営。結婚後は女友達4人とパティリーの企画運営と人材派遣の会社を設立、代表取締役に。2人のお子さん(女17歳と男14歳)と夫との4人暮らし。

I..ご自宅は横須賀ですが会社はどちらなのですか。

A..会社は東京渋谷です。毎日の仕事のために土日出張が多いので家を留守にすることが多く、夕方6時には帰宅する夫が毎日子どもと食事を一緒にしてくれることに感謝しています。

I..食事も作ってくれるのですか。

A..いいえ、食事は私が作って出かけています。夫の協力は、家事の分担よりも、私の社会進出への理解ということですね。

I..家計の方はどのようにしているのですか。

A..すべて折半にしています。経済面での自立という自負があって、それが私の生き方の原動力の一つになっています。そのかわりとってはなんです。私には「ほうれんそうが大嫌い」なんです。

I..ほうれん草?

A..わからないでしょう？ ほうは報告、れんは連絡、そうは相談です。報告、連絡、相談ごとが私は苦手で…。「ほうれんそう」はなかなか実行できないんです。

I..あなたのパートナー(夫)もバリバリ派ですか。

A..いいえ、石橋をたいてみてやっぱり渡るのやめるといタイプです。

I..お互いが違うタイプなのですね。

A..ええ、結果的には、私が仕事を通して自分を表現するのもっともいい結婚をしたなと思っています。

I..なるほど。お子さんはどのように育てていらっしゃいますか。

A..子どもたちは、みな自立心の旺盛な子です。男だからとか、女だからという言葉を使ったことはありませんし、何しろ自分のやりたいことを精一杯やり抜く人間に育てているつもりです。わが家には、門限も禁止事項もありません。放任でも甘やかしてもないつもりです。子どもが自分のやりたいことをやり抜く上で、親は邪魔をしてはいけないと思っています。娘は学校の文化祭の役員を張り切ってやっていますし、息子は部活に夢中です。

I..仕事は好きですか。

A..もちろん好きです。働くことが好きな上、収入が得られることに満足しています。それと社会につながっているんだ、という気持ちがありますね。私が毎日生

き生きとしていられるのは仕事のおかげです。仕事をしていない自分は想像できません。また、仕事を通じて人と出会える喜びがあります。人材派遣という仕事柄、常に人を探しています。そのためにもネットワークが大事なことで、機会がある限りどんどん出掛けていろいろな人に会うことを心掛けています。出会う人に男も女もありません。私がこうした自分の仕事に満足していることが、家庭円満の秘訣です。

I..娘さんも将来の夢はお母さんのようになることでしょうか。

A..アザイナー志望なので、目下学校選びを自分でやっています。仕事を実現させるための具体的な勉強ができる学校に行くと思っています。一つの目標のために努力を持っていますし、やるからにはいい結果を残そうと情熱を燃やしています。こんな娘を私も夫もこよなく信頼していますし、信頼されていることを自覚していると思います。

I..何か悩みや願望はありますか。

A..そういうことを聞かれるのが一番困るんです。第1に健康です。お産以外に病院に行ったことはありませんし、腹痛、頭痛、歯痛いっさいありません。こんな私ですもの、仕事をたくさんやらないんです。自分に対する夢がいっぱいあるので、夫には特に何も望むことはありません。いまままでおどりね、ついでいいやばや恐れ入りました。共働きの家庭といつてもいろいろな形があるのですね。

I..いやばや恐れ入りました。共働きの家庭といつてもいろいろな形があるのですね。

I..自身の可能性をフルに活用している女性ですが、特筆すべきはそのポジティブシンキングだと思います。短いインタビューでは表現しきれないのが残念ですが、積極的に社会にかかわる女性とその家族の事例として、今後のご活躍が楽しみな方です。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★

Tさん(30代男性)

子(男4歳)、妻(30代)の3人暮らし。お二人とも教職に就かれています。

I..生活の中でどのような役割分担をしていらっしゃいますか?

T..洗濯と炊事は妻が、私は買い物を担当しています。職場への送り迎え、子どもの保育園への送り迎えも私がやっています。

I..そのような送り迎えの時間を作る工夫はされていますか?

T..毎日同じ時刻に送り迎えをするには自分の努力だけではできない部分があります。その分職場の友人に助けられることもあります。ありがたいと思っています。

I..お子さんはまだ小さいですが、何か子育てで気をつけているところはありますか?

T..子どもが通っているのが保育園という事もあり、近所の子どもの接触が少なく、近所の公園へ連れて行ったりなるべく近所の子供とも顔見知りになれるようにしています。

I..仕事で遅くなった時など、誰かに面倒を見てもらっているのですか?

T..妻の両親に見てもらっています。家も近所ですし他の人に見てもらおうということとは考えていません。

I..それはなぜですか？ 両親が年をとったりとか病気という事もあるのではないですか?

T..一言で言えばあまり好きではないんです。出来れば2、3年の間仕事を休んで自分で育てたいくらいです。

I..パートナー(妻)も同じ考え方ですか?

T..いえ、彼女はどっちでも良いじゃないと言っています。ただ2人ともまずは子どもが生活の中心なんです。子どもの幸福が第一で、僕は第二なんです。

I..男女共同参画社会についてどう思いますか?

T..少し水戸黄門の印籠みたいな感じがしますが、人それぞれに出来る領域というのがあって、自分は自分なりの形という領域でできればいいと思いますよ。

I..でも子どもさんが大きくなられたら、もっとそういう世の中になっているかもしれませんよ。

T..子ども本人がもっとやりたいと思ってるならそれはそれでいいとも思います。ただどんな時でも、主体的にかかわってもらいたいと思います。

I..と語られるTさんは眼鏡の似合う優しいお父さん。仕事を机の上に残して帰るのは嫌なんだけれど、でも子どもに同じようなリズムをつけてあげたいからと話しを終えられましたが、とってもユニークで繊細な方ですね。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★

Sさん(50代女性)

現在、横須賀市にお勤めで、3人のお子さん(男24歳、男22歳、女19歳)、夫(50代会社員)と5人暮らし。

I..家事の分担はあるのですか?

S..食事は原則的に家にいる人が作ります。息子が朝ご飯を作って弟妹の弁当を作るということもあります。家事はその

場その場で出来る人がするようになっていきます。

I..仕事をやめようとした事はありませんか?

S..何回も…。子どもを産んだ後疲労がたまり過ぎて入院した事があります。その時夫婦でこれからについて話し合いました。私はどうしても仕事はやめたくない。家事も育児も手を抜かずやりたい。でも医者からは体力の限界だと言われたので、育児は代わりの方を頼もうという事に決めました。

I..それは保育園などに預けるということですか?

S..いいえ。私たちの家に保育ママに来ていただいていた面が見てもらいました。

I..子育てに何かこれだけはい事はありますか?

S..我が家の子どもたちは夫婦が互いに働いているのは当たり前だと思っています。私が子どもたちに言っているのは、パートナー同士が互いを尊重しあう、そんな大人になってほしいという事です。

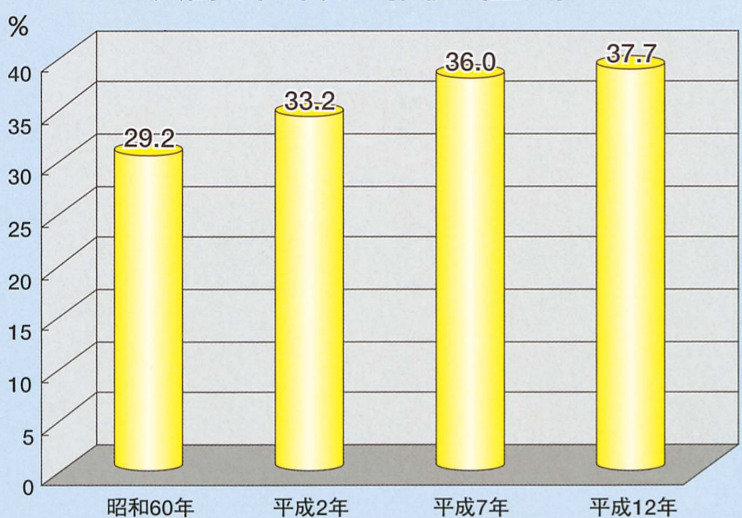
I..一言でいうと簡単ですが大変な事ですよ。でもそれを実践していらっしゃる訳でしょうか。これから何かやりたい事とありますか?

S..子どもが人にお世話になったときから、私も社会的に何か出来る事があればやっていきたいと思っています。子どもは、自分たちで小さい時に面倒を見てくれた方々を尋ねたり、成人式の挨拶に行ったりしています。

男女共同という言葉を取り敢えず実践しているSさん。職場では頼もしく優しい上司。「帰宅拒否になったこともあるんですよ。」とこやかに話されました。キーワードは「パートナーの理解と話し合い」と話しを結ばれました。



共働き世帯数の推移(全国)

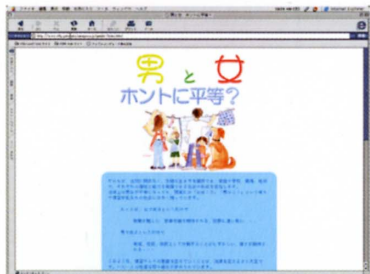


注: 妻が65歳未満である典型的な一般世帯総数に占める割合である。  
資料出所: 総務省「労働力調査特別調査」

## ご存知ですか？ 男女平等専門委員

みなさん、「男女平等専門委員」の制度をご存知ですか？ 横須賀市では、男女共同参画推進条例の施行に伴い、性別による人権侵害でお困りの方や市の実施する男女共同参画に関する施策に対して不服のある方などの申出窓口として、この「男女平等専門委員」という制度を設けました。独立機関としての「男女平等専門委員」が公正かつ中立な立場で迅速に問題解決を行い、必要に応じては関係機関に引き継ぎます。制度についてのお問い合わせは、男女共同参画課まで。なお、申出に必要な書類は、ホームページからもダウンロード可能です。

### ホームページをのぞいて見ませんか？



横須賀市では、男女共同参画社会の推進の一環として、様々な情報をインターネット上のホームページで提供しています。今年の4月より施行した横須賀市男女共同参画推進条例の全文やモデル事業所としての取り組み、男女共同参画推進拠点としてのデュオよこすかななどの情報を入手することが可能となっています。また、ご意見・ご要望などをお寄せいただくこともできるようになっています。是非一度、アドレス

<http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/gender/index.html> にアクセスしてください。

### まちづくり電子フォーラムへご参加ください！



ホームページと平行して、市民がインターネット上で議論を行い、まちづくりに反映していこうという制度である「まちづくり電子フォーラム」に、「男女共同参画について考える」というテーマでご意見をお待ちしております。横須賀市では、男女共同参画社会の実現に関連する施策の実効性を高め、市と市民、事業者等がそれぞれの責務を確実に果たしていくことができるよう男女共同参画条例を制定を機会に、みなさんの生の声を募集しています。男女共同参画に関して、自由にご意見をお書きください。アドレスは、

<http://www.ysc-unet.ocn.ne.jp/bbs/danjo/honey.cgi> です。

## 編集 後記

います。

私事になりますが、思い出せば、家庭の事情で大学に入學できず、悩み、何か若いうちに才能を伸ばす方法とは考え、それは自分の一番好きな事を、そして人のできない事をやろうと思ひ、日本画を働きたがら勉強しました。努力の甲斐あって、第二回日展に入選し、その後「港の工場」を市に寄贈したところ、ウエルシテイ二階に展示されて、感激いたしました。働く人の気持ちを描いたつもりです。観賞いただければ幸いです。

渡辺三枝子

将来どんな社会になっていることを望みますか、と問われたら迷わず「明るい社会の実現」と答えるでしょう。明るいとは、その人がその人らしく生きられる社会ではないでしょうか。その人の性によって差をつけられることがあってはならないはず。ついでこの間も交通事故の犠牲者が男の子と女の子では賠償金が異なる、という記事を読み愕然としたのは、私一人ではないと思います。

こうした男女共同参画社会を阻む感覚を是正するには、やはり能力ある女性の社会進出が不可欠ではないでしょうか。今回インタビューをした方々は必ずしも「明るい社会」をつくっているとは自覚なさっていないかもしれませんが、でも私は大いに触発され、実に楽しくお話しが何えました。ありがとうございます。

木村 蓉子

物を書くという事から離れていたのが最初はどうなる事かと思いましたが、無事予定どおり発行出来ホッとしています。新しい友人も増え色々勉強も出来る、良いチャンスを与えられたと個人的には喜んでます。

男女共同参画社会は言葉と実際では大きなギャップがあると思います。これからの世の中を創り上げていく青年達が住みやすく、生きていきやすい環境の礎を築く時、共に考える事ができた事に感謝しつつ、次の方たちにバトンタッチしたいと思います。

加藤 洋子



★表紙のイラストは、ホワイトの会 松井三郎先生の作品です。

◎ニューウェーブは公募による市民の方によって、企画編集を行っています。

皆様のご意見やご感想をお待ちしています。

横須賀市市民部男女共同参画課 〒238-8550 横須賀市小川町11 ☎0468-22-8228  
e-mail [we-pc@city.yokosuka.kanagawa.jp](mailto:we-pc@city.yokosuka.kanagawa.jp)  
ホームページ <http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/gender/>